

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和6年度病虫害発生予察注意報第5号について

このことについて、病虫害発生予察注意報第5号（ハスモンヨトウ）を発表したので送付します。

注意報第5号

1 対象作物名：大豆、野菜類（イチゴなど）

2 病虫害名：ハスモンヨトウ

3 発生予想：多

4 予報の根拠

(1) 8月1半旬から9月2半旬のフェロモントラップにおける雄成虫の誘殺数は平年よりやや少なかったが、9月3半旬以降、ハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺数が増加傾向であり、特に筑後市で、9月3半旬から4半旬にかけて急激に増加している（図1）。

(2) 大豆の9月2半旬調査の結果では、白変葉発生株率は15.4%（平年3.3% 前年17.1%）、発生ほ場率は83.3%（平年48.9% 前年100%）で平年より多かった（図2）。なお、ハスモンヨトウの10株当たり払い落とし幼虫数は2.3頭（平年4.1頭 前年2.8頭）、発生ほ場率58.3%（平年64.8% 前年100%）であった（図3）。

(3) イチゴの9月2半旬調査の結果では、チョウ目被害株率は6.8%（平年2.7% 前年4.0%）、発生ほ場率58.3%（平年49.8% 前年50.0%）で、平年より多かった（図4）。

(4) 福岡管区气象台9月19日付発表の1か月予報では、向こう1か月の気温（9/21～10/20）は高く、期間の前半はかなり高くなると予想されている。

4 防除上注意すべき事項

(1) 共通

ア ほ場周辺の雑草は増殖の場となるので、除草を徹底する。

イ 中齢幼虫になると薬剤の効果が低下するため、早期発見に努め、若齢幼虫のうちに薬剤防除を実施する。

ウ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布する。なお、一部の薬剤で感受性の低下が懸念されているため、薬剤の選定には十分注意する。

エ フェロモントラップを活用した防除適期の目安は、誘殺ピークから10日目頃であるが、地域によって誘殺数に差があるため、ほ場で発生状況を必ず確認し、防除する。

(2) 大豆

ほ場のハスモンヨトウや白変葉の発生状況を確認し、薬剤防除を実施する。

(3) 野菜

ア 施設栽培の場合は、ハウスの開口部に防虫ネット(目合い0.4mm以下)を張り、成虫の飛び込みを防止する。

イ イチゴ、ナス、トマト等の果菜類では、葉以外にも花蕾や果実を食害するため注意する。

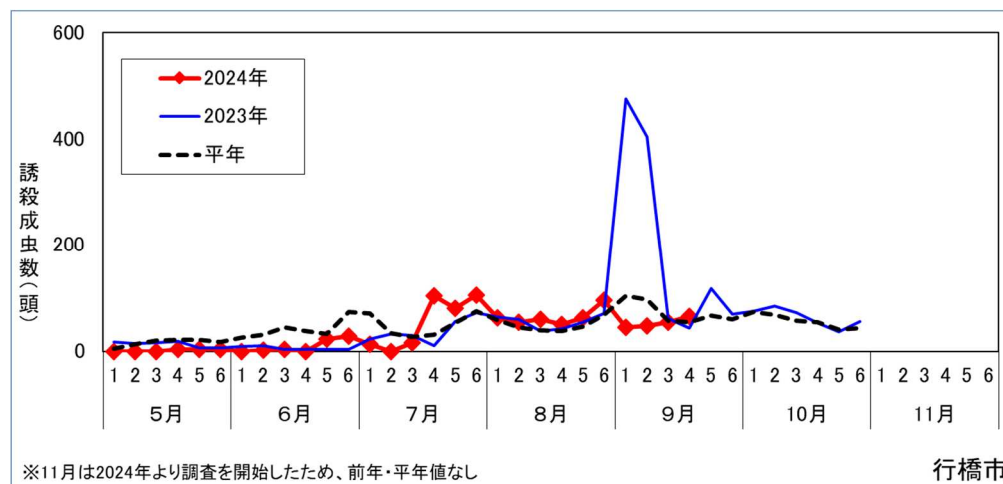
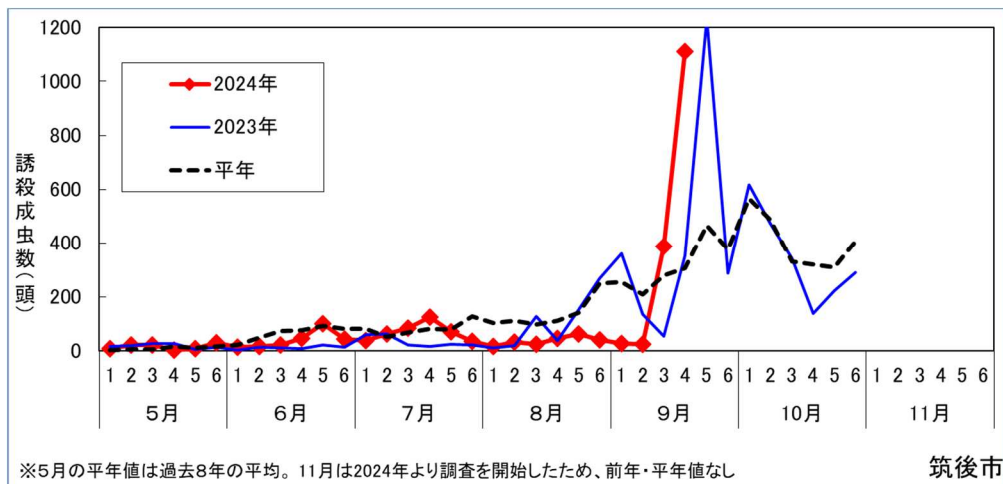
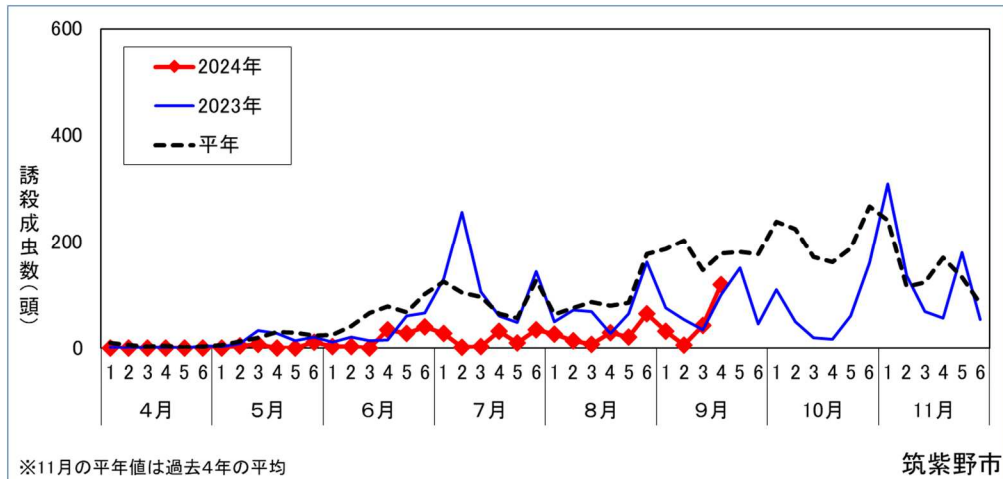


図1 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺成虫数

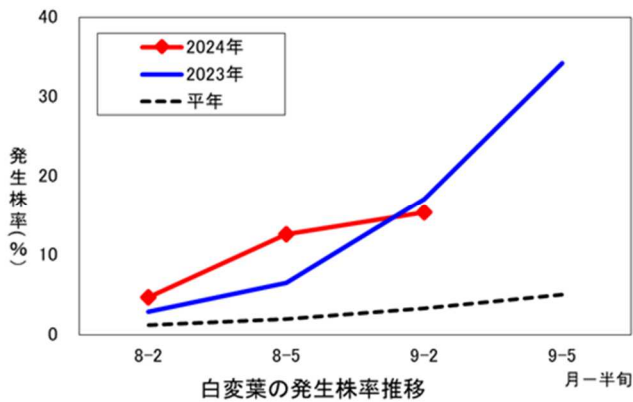


図2 大豆における白変葉の発生株率の推移

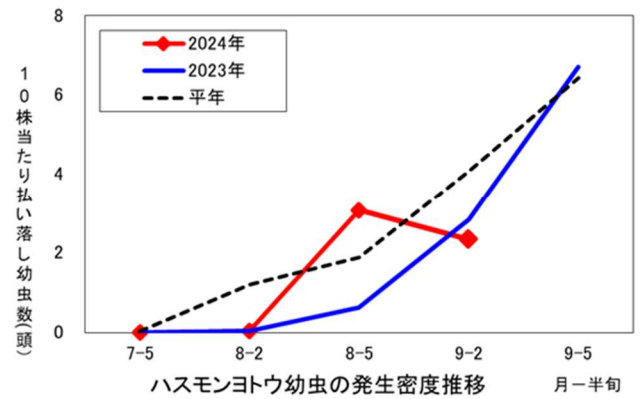


図3 大豆におけるハスモンヨトウの発生密度推移

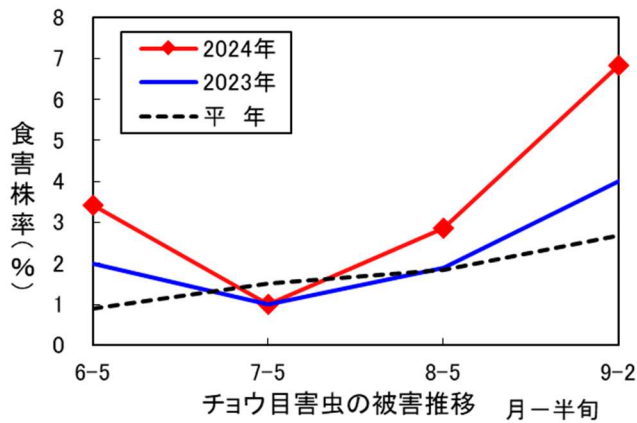


図4 イチゴにおけるチョウ目被害の推移

病虫害防除所のホームページでは、各種病虫害の発生状況を随時更新しています。発生状況の把握や防除の参考にご活用下さい。

○福岡県病虫害防除所のホームページへのアクセス

URL: <https://www.jppn.ne.jp/fukuoka/> または右QRコード

○X (旧 Twitter) で定期情報や警報等発出のお知らせを始めました。

X (旧 Twitter) の本アカウント (福岡県農作物病害虫情報) へのアクセス

URL: https://twitter.com/PPDPO_Fukuoka または右QRコード



福岡県病虫害防除所
最新の病害虫発生状況

